

論文の内容の要旨

論文提出者氏名	小 口 泰 尚
論文審査担当者	主 査 柴 祐 司 副 査 今 村 浩 ・ 山 田 充 彦
論文題目	Ankle-Brachial Index as a Prognostic Indicator in Patients with Atrial Fibrillation - A Subanalysis of the IMPACT-ABI Study (心房細動患者における予後予測指標としての ABI 値 - IMPACT-ABI サブ解析)
(論文の内容の要旨)	<p>【背景】心房細動患者において CHADS2 スコア及び CHA2DS2-VASc スコアは確立された予後予測因子である。一方、ABI 値は一般的に末梢動脈疾患の診断に有用だけでなく心血管イベント、全死亡の良好な予後予測因子であることが知られている。しかしながら、心房細動患者において ABI 値が良好な予後予測因子となり得るかどうかは不明である。本研究の目的は、心房細動患者において ABI 値が心血管イベントに対する予後予測因子となりうるかどうかを調べることである。</p> <p>【方法】2005 年から 2015 年まで信州大学循環器内科に心血管疾患で入院し、ABI 値を測定した患者は 3131 人であった。そのうち心房細動があり(401 人)かつ入院時に測定された ABI 値が<1.5 の患者 398 人が本試験にエントリーされた。平均年齢は 68.0 ± 11.3 歳であり平均追跡期間は 4.6 ± 2.7 年であった。これら 398 人に対し入院時 ABI 値が 0.92 以上の群と 0.92 未満の 2 群に分け MACE(心臓血管死・心筋梗塞・脳梗塞の複合エンドポイント)発生との関係につき調査した。</p> <p>【結果】ABI 値によって分けられた 2 群は「高 ABI」群が 332 人(83.4%)であり、「低 ABI 群」は 66 人(16.6%)であった。基本特性として BMI 値、冠動脈疾患、高血圧、脂質異常症、脳卒中、睡眠時無呼吸症候群の患者数は両群で差がみられなかったが、「低 ABI 群」では有意に CHADS2 スコア、CHA2DS2-VASc スコア、血清クレアチニン値、NT-pro BNP 値が高値でありヘモグロビン値、e-GFR 値、HDL コレステロール値は有意に小さかった。退院時の内服薬としてスタチン製剤、アンジオテンシン転換酵素阻害剤(ACEIs)、アルドステロン受容体拮抗剤(ARBs)、アミオダロンにおいて両群に有意差を認めなかった。また、心臓超音波所見として左室駆出率が有意に小さかった。追跡期間中に MACE は 398 人中 52 人(13.1%)で生じた。内訳は心臓血管死が 37 人、心筋梗塞が 4 人、脳卒中が 11 人であった。入院時の ABI 値が 0.92 未満であった群は 0.92 以上であった群と比較して有意差をもって MACE 発症が多かった(66 人中 17 人 対 332 人中 35 人, ハザード比 2.2, 95% 信頼区間 1.3 - 3.6, p 値 = 0.0056)。一方 CHADS2 スコアが 2 点以上の群と 2 点未満の群で比較したが MACE 発症率に統計学的有意差はみられなかった。また CHA2DS2-VASc スコアが 2 点以上と 2 点未満の群においては 2 点以上の群で有意差をもって MACE 発症率が大きかった(ハザード比 3.0, 95% 信頼区間 1.2 - 7.4, p 値 = 0.0079)。</p> <p>【考察】心房細動患者は、脳卒中、心不全増悪入院、死亡の高リスクであり、心房細動患者において CHADS2 スコアおよび CHA2DS2-VASc スコアは脳梗塞や心不全、心血管死の予後予測因子として知られているが、ABI 値も同様に予測因子となり得るかどうかは今まであまり知られていなかった。本研究では、心房細動患者にとって低 ABI 値が CHADS2 または CHA2DS2-VASc スコアと同様に心血管死、脳卒中、心不全増悪入院の予測因子となりうる可能性が示唆された。心房細動患者において入院時 ABI 値が低値である場合末梢動脈疾患のリスクであるのみならず、将来その患者は心血管イベント発症リスク、</p>

死亡リスクが高いと考えられ、積極的な心血管疾患に対する予防、治療などの介入を含め注意深い経過観察が必要であると考えられる。